



こすもスマイル



発行／小林市立病院
地域医療連携室

27号

平成29年9月4日発行

～看護部長のあいさつ～



残暑お見舞い申し上げます。

平素より皆様方には、当院の地域連携に対しましてご理解、ご協力をいただき感謝申し上げます。

7月から4病棟制となり、新たに地域包括ケア病棟（32床）の運用を開始しました。地域包括ケア病床はご存じのとおり、急性期の治療や緊急対応の後に病状が安定したところで、自宅や施設に退院される方々を対象としております。患者さん方には在宅復帰に向け、余裕を持って退院調節出来ることに好評を得ています。

また、今回退院支援看護師育成研究に2名が受講することになりました。患者さんの個別性を考慮した生活支援を行う看護の視点を養い、退院支援における看護師の役割を理解し実践できる研修となります。今後は、このような教育支援も益々重要になってきます。

さらに7月から大平落 里美看護師が緩和ケア認定看護師として活動する事になりました。どうぞよろしくお願い致します。彼女のひたむきな頑張り、と、病院職員のサポートもあり実現できたことと思います。緩和ケアは、医療、介護、在宅領域全てで必要となってきます。いずれの療養環境でも緩和ケアが提供できるよう、その高い実践能力を遺憾なく発揮してほしいと思います。

平成30年は診療報酬改定、DPC導入等さらに外来、病棟共にめまぐるしく変化していきます。特に、DPC導入による入院期間の短縮、地域医療ニーズを踏まえた地域包括ケアシステムでの外来の役割など、外来看護体制についても取り組んでいかなければなりません。

今後とも地域の医療機関、介護施設の皆様と連携を図り、看護の質向上に努めてまいりたいと思いますので、ご指導の程よろしくお願い致します。

小林市立病院 看護部長 漆原 トモ子

理 念

「安心、安全で信頼される病院を目指します」

【基本方針】

- ◎ 西諸の中核病院として、地域の医療機関と連携し、高度な医療を提供します
- ◎ 職員一丸となって、迅速な対応とチーム医療で、安全な医療を提供します
- ◎ 誠実かつ真摯（しんし）な姿勢で日々研鑽（けんさん）に努め、信頼される質の高い医療を提供します
- ◎ 自治体病院として、平等で心が通い合い、安心できる快適な療養環境を提供します
- ◎ 患者様と家族の満足を追求し、プライバシーの保護をはじめ患者様の権利を尊重します



診療部紹介

今回は

整形外科

です。



高齢者の膝関節血腫

特に誘因なく、膝関節内に出血を繰り返す方々をよく見かけます。

高齢者で、心房細動、深部静脈血栓症、心臓人工弁置換術後、狭心症、脳梗塞後などで、抗凝固療法をされている方が多いです。しかし、抗凝固療法のない方も認められます。

変形性膝関節症がもともとあり、関節構成体である軟骨や、半月板、靭帯などの加齢による変性を基盤とし、続発する滑膜炎や機械的負荷による軟骨破壊や骨増殖が生じて、関節変形を生じ、疼痛や腫脹、可動域制限などを呈します。

さらに、本症には剥離した軟骨片、滑膜炎、骨棘、骨嚢腫、変性断裂した半月板や関節内遊離体などさまざまな病態が存在します。

特発性膝関節血腫という病態は、変形性膝関節症を基盤に、何らかのファクターによって、滑膜などの組織から出血し、血腫となり、滑膜炎、毛細血管拡張増強、血管脆弱化を起こしたために、滑膜は、易出血性となり、更なる関節血腫を引き起こす悪循環に陥っていると考えられています。

治療は、軽症の場合、関節内血腫を吸引して、弾性包帯などで、固定する、などの保存療法がありますが、軽減しないときは、滑膜切除術、蒸散止血などがあります。



まだまだ暑い日が、続いています。

北部九州豪雨での復興は、まだまだ大変です。仮設住宅で生活し、生計をたてるための、道路、宅地、農地の再整備は、本当に苦労の連続とされます。何か、助けにならないかいろいろ思いめぐらします。

熊本地震、さらには、東日本大震災も復興の途上です。先日、訪れた名取市閉上は、土地がかなりかさ上げされ、まだ整備中で、ほとんど家は再建されていませんでした。

未だに、こころ癒えていない人々が、頑張ろう、と言っているのを聞いて自分も鼓舞されました。

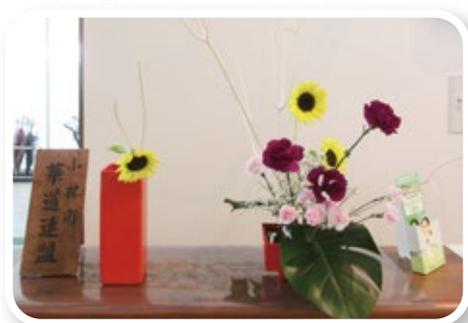
こんな暑さには、負けられません。

ただし、水分は十分とって、熱中症には気をつけましょう。下肢のひきつりも減りますよ。

整形外科部長 中村 憲一

今回のお花

小林華道連盟より
毎週すばらしいお花をいただいております。



看護部紹介

今回は

5 階 病 棟

です。



当病棟は病床数 54 床の消化器外科・腫瘍外科です。病棟では外科医 4 名、看護師 30 名のほかに薬剤師、管理栄養士、臨床工学技士、リハビリスタッフ、医療ソーシャルワーカー、退院調整看護師、看護補助者、クラークとともにチーム医療に取り組んでいます。主な疾患は胃、大腸などの消化器関連の疾患のほか、肺、乳腺疾患です。手術療法、手術前後の補助化学療法、術後再発疾患患者の化学療法を目的とした入院患者さんを多く受け入れています。また、がん患者さんに緩和ケアを提供できることを目指しています。治療を受ける患者さんは既往歴のある方や高齢な方も多く、手術後はスムーズに離床できるよう早期にかかわり、異常の早期発見や合併症の予防に努めています。

また、受け持ち看護師を中心に入院前の在宅状況や患者さん及びご家族の要望を確認し、医療ソーシャルワーカー等多職種と入院時から継続的に社会復帰や在宅に向けた退院支援を行っています。緊急入院や重症な患者さんも多く入院されており、毎日忙しい病棟ですが、患者さんが安心して入院生活が送れるように、いつも明るい雰囲気づくりをスタッフ全員で心がけています。

さらに今年 4 月からがん看護専門看護師である児玉さとみ看護師が癌性疼痛や終末期の看護に積極的に関わってくれています。7 月には大平落里美看護師が緩和ケア認定看護師資格を取得しました。どちらも癌の患者さんや化学療法を受ける患者さんの多い当病棟ではとても必要な資格です。専門的知識と技術を持った 2 名の看護師を中心に緩和ケアチームと連携を図り、疼痛緩和や精神的サポートを積極的に行っていきたいと思っています。

「この病棟で最期の時を迎えることができ良かった」と患者さん及びご家族に心から思っていただけのような看護ができるよう日々努力して参ります。

5 階病棟 副看護師長 猪上 広美



★ 緩和ケア認定看護師 ★



大平 落 里 美



★ がん専門看護師 ★



児玉 さとみ



グローバルキッズ事業



小林市教員委員会が主催するグローバルキッズ事業（以下「本事業」とします。）（医療コース）は、平成27年度にスタートし、今年度で3回目を迎えました。

毎年、市内の小学5年生から中学3年生を20名程度受け入れ、20種類以上ある医療職のうち約半分の職種について見学や体験をしてもらうことで児童・生徒（以下「子供達」と言います。）の気付きやキャリア形成、家族とのコミュニケーションの一助になればと考え本事業に参加させてもらっています。

今年度は、夏休みも半ばに差し掛かった8月8日（火）に丸1日を掛けて行いました。

午前9時前、子供達が続々と病院に集合してきました。今年度は22名の子供達が参加してくれました。

早速、看護衣に着替えた子供達は、きらきらと目を輝かせ、生き生きとした表情で当院の会議室に着席していました。

開講式直前、当院のドクターヘリポートに宮崎大学医学部附属病院からドクターヘリが到着しました。良い機会でしたので子供達に見学してもらいました。

その後、市教育委員会の社会教育課長のご挨拶で本事業を開講しました。

子供達には、午前中をフルに使って、ベッド移乗、手洗い、手術室見学などの看護体験をしてもらいました。聴診器を使って体の音を聴く体験が特に印象深かったようです。

昼食を挟んで午後は、管理栄養士が、栄養が身体に与える影響について説明し、食事が身体を作っていることを学んでもらいました。

リハビリテーション室からは、ストレッチの効果、福祉用具の紹介や検査道具に触れ、体を動かす体験をしてもらいました。

透析室では臨床工学技士と一緒に内視鏡や腹腔鏡を使って、胃や腸の模型の中に仕込まれた飴をモニターで探し、取り出したり電気メスを使った体験をしてもらいました。

放射線室では、一般撮影装置で撮影した被写体の見え方の見学、検査室では検査機器の見学、薬剤や救急車の見学もしてもらいました。たくさんの内容で疲れた子供もいたでしょうが、夏休みの思い出や将来の職業選択の一つに加えてもらえば幸いです。

当院が本事業に参加することは、前述したとおりキャリア形成等の一助にしてもらうことはもちろんですが、子供達を受け入れ、仕事を伝え体験してもらうことで、職員自らが仕事の意味に気付き、その意義を明確にする機会にもなります。また、子供達の新鮮な視線や質問を受けることで新たな気付きを得てリフレッシュできますし、職場が活性化されるというメリットがあると考えています。

子供達の興味関心はどのようなところにあるのか、もっと身近に感じてもらうにはどうすれば良いかなど工夫を凝らしながら今後も本事業に参加できればと考えています。

事務部 財務係長 貴嶋 誠樹



症例検討会

平成29年7月31日（月）に「第26回症例検討会」を当院2階大会議室にて開催しました。今回は、院内職員と小林保健所の所長さんによる発表となりました。たくさんのご質問やご意見、大勢の方々にお越し頂き大変充実した会となりました。ありがとうございました。

第26回症例検討会

日時：平成29年7月31日（月）18時30分～ 参加人数 85名

座長：小林市立病院 整形外科科長 中村 憲一



「自死遺族への看護」

小林市立病院 外来
○看護師 池ノ上 功一
福永 幸枝 / 武田 愛



「信頼関係の変化により生活意欲が向上した症例」

小林市立病院リハビリテーション室
○作業療法士 渡辺 真理



「股関節機能不全や疼痛により離床に難渋した症例のシーティングにおける一考察」

小林市立病院リハビリテーション室
○理学療法士 三角園 祐司



「高齢者福祉施設における呼吸器感染症集団発生時の保健所の対応」

小林保健所
○和田陽市（小林保健所）
宮田弥佳（福祉保健課）
小野智美（小林保健所）
高妻真子（高千穂保健所）
永野秀子（福祉保健課）



透析導入を回避できた急性腎不全の2例

小林市立病院 泌尿器科
○川越 真理



S状結腸軸捻転の2症例

小林市立病院 消化器外科・腫瘍外科
○島名 昭彦 / 泊 賢一朗
徳田 浩喜 / 坪内 斉志



新規医師紹介

よろしく
おねがいします!



スズキ ヤスト
鈴木 康人

○診療科 消化器外科・腫瘍外科
○趣味・特技 海外ドラマ鑑賞



この度8月と9月の2か月間、勤務させていただきます研修1年目の鈴木康人です。大学6年生での実習でも2週間と短い期間でしたがお世話になり、手術や内視鏡など多くのことを指導していただき貴重な経験ができました。今回、研修医としても先生方の指導の下で医療を学びたいと思い選択させていただきました。4月から6月までは県立延岡病院の救急科で、7月は宮崎大学附属病院の精神科で研修しておりました。経験が少なく、知識も乏しいためご迷惑をお掛けすることもあるとは思いますが、2か月間よろしくお願い致します。

今月の献立



おながき

- ・ご飯
- ・冷や汁
- ・弁当

とり天

鮭のホイル焼き

煮物

しろなのおろし和え

さつま芋サラダ

フルーツ

2017年 敬老の日は9/18

敬老の日は、祝日法第2条に定められた「多年にわたり社会につくしてきた老人を敬愛し、長寿を祝う」ことを趣旨としています。

その歴史は古く1948年に制定されたこどもの日、成人の日から遅れること18年。1966年に屈折曲折を経て制定されました。



連絡先

小林市立病院 地域医療連携室

TEL 0984-23-8225 (直通)

FAX 0984-23-8226

Mail k_hosp4@city.kobayashi.lg.jp

編集後記

連日暑い日が続いており、私は夏バテ気味です。みなさんは夏バテになっていませんか。私は、早く過ごしやすい季節にならないかなあと思っています。また小林市では、梨・葡萄狩りも始まっているようで、秋が近づいてきているなあと思ったりしています。おいしい果物を食べながら、夏バテにならないように気を付けましょう!!

地域医療連携室 医療ソーシャルワーカー 時任 由紀奈